

小山市長 令和3年1月 定例記者会見

1 開会

2 市長あいさつ

3 市長発表内容

- 1 「小山市民フォーラム」の開催について
～市政について市長と意見交換してみませんか?～
- 2 「保育所等入所選考AIマッチングシステム」の導入について
～職員の働き方改革の一環として～
- 3 コロナに負けるな!!
学校給食への「栃木県産和牛肉」と「鹿児島県産かんぱち」の提供について
～美味しい日本の恵で元気なからだ おやまっ子～

4 部長等発表内容

- 1 令和3年第1回市議会定例会提出予定議案について
- 2 小山市 シティプロモーション キャッチコピー・ロゴデザイン市民投票について
～ 市民ひとりひとりが決める、新しい「小山市」のキャッチコピー ～
- 3 「第2期小山地区定住自立圏共生ビジョン(素案)」に係るパブリックコメントの実施について ～誰もが住みたい・住み続けたい圏域を形成します～
- 4 小山市コミュニティバス「おーバス」利用促進プロジェクトがグッドデザイン賞
に続き「令和2年度JCOMMプロジェクト賞」を受賞しました
- 5 令和2年 火災・救急・災害・救助件数について
～その火事を 防ぐあなたに 金メダル～

5 閉会

記者会見資料

秘書広報課

1. 件 名

「小山市民フォーラム」の開催について
～市政について市長と意見交換してみませんか？～

2. テーマ

「都市と田園が調和した持続可能なまち」
～あなたが考える田園環境都市小山とは？～

3. 要旨

「小山市民フォーラム」は、市民参加型まちづくりを進めるため、市民の皆さんと市長が意見交換を行い、市民の皆さんのご意見を市政に反映させるものです。
今回のテーマは「都市と田園が調和した持続可能なまち」です。都市と田園が調和したゆとりと潤いのある魅力的で美しい都市・農村環境の形成など、多世代が小山に住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりについて意見交換を行うものです。

4. 内容

(1) 日 時 令和3(2021)年3月20日(土)午前10時～(11時30分頃終了予定)

(2) 会 場 小山市立文化センター小ホール 小山市中央町1-1-1
※駐車場は、市役所西側駐車場をご利用ください

(3) 対 象 市内に在住・通勤・通学している方。定員70人。

(4) 申込み

令和3(2021)年2月19日(金)(必着)までに記載事項を明記し、次のいずれかの方法で提出ください。

【記載事項】①「住所」②「氏名」③「電話番号」④「(お持ちの方は)メールアドレス」⑤年齢⑥手話通訳・託児利用の希望の有無⑦市長と意見交換を行いたい内容(テーマに沿ったもの)(事前に集計し、希望の多い内容について意見交換を行います)

■市HP 検索サイトで「小山市 市民フォーラム」と検索

■メール oyamacity@city.oyama.tochigi.jp

■郵 送 〒323-8686 住所不要 小山市役所 市民フォーラム担当 宛て

■FAX 22-9380 小山市役所 市民フォーラム担当 宛て

■窓 口 秘書広報課窓口または各出張所窓口(窓口に参加申込書を用意しています)

※応募者多数の場合は抽選により決定

(5) 募集方法

広報おやま2月号、市HP、行政テレビ、おーラジ、SNS等により周知。

5. 新型コロナウイルス感染症対策

・フォーラム当日に発熱等風邪の症状がある場合は出席をご遠慮ください。会場入り口にて検温の実施、マスクの着用をお願いします。

・会場については、人と人との間隔を空け、換気を行い、入口に手指消毒用の除菌スプレーを用意する等の対策を行います。

※市内の感染拡大の状況によっては、規模の縮小や開催方法の変更または開催を中止する場合があります。

記者会見資料

保健福祉部 こども課

1. 件 名

「保育所等入所選考 A I マッチングシステム」の導入について
～職員の働き方改革の一環として～

2. 内 容

小山市では、職員の働き方改革の一環として、保育所等入所に係る事務負担軽減を図るとともに、入所相談など保護者への窓口対応などを充実させるため、入所選考の判断基準の整理や、業務フローの整理と再構築を行い、保育所・保育園・認定こども園（保育認定）の R3 年 4 月入所選考から「A I マッチングシステム」の本格運用を開始しました。

3. システム導入までの経過

- R 元年 7 月 システム活用に向けた 1 回目の実証試験を実施
(H31 年 4 月入所実績データとの比較 マッチング率 75.0%)
- R 元年 8 月 システム活用のための入所選考基準（指数表）の見直しを実施
- R 2 年 1 月 システム活用に向けた 2 回目の実証試験を実施
(R2 年 4 月入所実績データとの比較 マッチング率 91.4%)
- R 2 年 12 月 R3 年 4 月からの新規入所申込者の選考をシステムを活用し実施
(システム本格稼働)

4. 4 月入所に伴う業務時間の削減について（システム導入の効果）

（10 月～2 月の業務時間）

申請年度 区分	H30 年度 (A)	R2 年度 (C)	削減時間 (A-C)
業務時間	約 1,200 時間	約 886 時間	314 時間

※AI システムの導入に伴い、入所利用調整回数を削減するなどの業務改善により、314 時間の業務削減効果

5. 施設ごとの 4 月新規入所申込者数の推移（参考）

() 内は施設数

区 分	H30 年度 (A)	R 元年度 (B)	R2 年度 (C)	増減 (C-A)
1 私立保育園	519 人 (24)	486 人 (23)	524 人 (24)	5 人 (0)
2 公立保育所	115 人 (10)	106 人 (10)	122 人 (9)	7 人 (△1)
3 認定こども園	215 人 (12)	387 人 (14)	396 人 (15)	181 人 (3)
合 計	849 人 (46)	979 人 (47)	1,042 人 (48)	193 人 (2)

※ 各年度の申込者数は、次年度 4 月入所に向けた申込者数となります。

※ 各年度の施設数は、次年度 4 月時点の施設数となります。

記者会見資料

教育委員会 学校教育課

1. 件名

コロナに負けるな！！

学校給食への「栃木県産和牛肉」と「鹿児島県産かんぱち」の提供について

～美味しい日本の恵で元気なからだ おやまっ子～

2. 内容

栃木県では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた農畜水産物の消費拡大を図るため、関係団体等と連携し「とちぎの地産地消元気アップ運動」を展開しています。

小山市では、その取り組みの一つとして県内小中学校等の学校給食に県産和牛肉が無償提供される「地産地消元気アップ牛肉給食推進事業」を活用し、栃木の恵をおやまの子どもたちに届けています。今回は2月に、小山市内の小・中・義務教育学校において実施します。

また、小山市出身の CLIEVY（クリビー）と鹿児島県鹿屋市出身の KEEN（キーン）によって結成されていて、小山評定ふるさと大使、かのやばら大使でもある C&K の橋渡しによって小山市と農林水産振興、観光振興などの連携協定をした鹿児島県鹿屋市とのご縁により、学校給食に鹿児島県産「かのやカンパチ」を無償で提供していただけることになりました。鹿屋市の海は、黒潮がたえ間なく流れ込む豊かな漁場で、カンパチの生育に最適です。カンパチは、ブリの仲間の高級魚で、給食ではなかなか食べられない魚です。

この日本の恵みに感謝し、学校給食をとおしてコロナに負けない子どもたちの元気なからだづくり、農畜水産物の消費拡大、生産者支援につなげていきます。

3. 提供期間 令和3（2021）年2月

4. 対象校及び提供料理名 別紙のとおり

5. 問合せ 小山市教育委員会 学校教育課 食育推進係 TEL0285-22-9653

※小山市における C&K の主な活動歴

平成 28（2016）年 7 月 文化センター大ホールにて単独ライブ開催

小山評定ふるさと大使に委嘱

平成 29（2017）年 8 月 小山運動公園陸上競技場にて小山凱旋ライブ

平成 31（2019）年 3 月 イオン小山店第一駐車場にて単独ライブ開催

令和元（2019）年 10 月 文化センター大ホールにて単独ライブ開催

【別紙】学校給食への「鹿児島産かんぱち」無償提供（学校順）

No.	学校名	共同調理場の場合 の供給校	使用日	使用料理名	使用量 (kg)	小・中別計 (kg)
1	小山第一小学校給食共同調理場	小山第一小学校 小山第二小学校 小山第三小学校	2月17日(水)	かんぱちの甘酢和え	49.0	518.4
2	小山城南小学校		2月18日(木)	かんぱちの甘酢和え	33.5	
3	旭小学校		2月9日(火)	かんぱちの甘酢和え	22.5	
4	小山城北小学校給食共同調理場	小山城北小学校 若木小学校	2月18日(木)	かんぱちの甘酢和え	40.8	
5	東城南小学校		2月4日(木)	かんぱちのみそがらめ	45.0	
6	小山城東小学校		2月18日(木)	かんぱちの甘酢和え	38.8	
7	大谷東小学校		2月17日(水)	かんぱちの甘酢和え	49.0	
8	大谷北小学校		2月4日(木)	かんぱちの甘酢和え	51.6	
9	間々田小学校		2月17日(水)	かんぱちの甘酢和え	28.5	
10	乙女小学校		2月9日(火)	かんぱちの甘酢和え	20.5	
11	間々田東小学校給食共同調理場	間々田東小学校 大谷南小学校	2月15日(月)	かんぱちの甘酢和え	43.8	
12	下生井小学校		2月16日(火)	かんぱちの甘酢和え	2.5	
			2月25日(木)	かんぱちの照り焼き	3.0	
13	網戸小学校		2月16日(火)	かんぱちの甘酢和え	3.3	
			2月25日(木)	かんぱちの照り焼き	3.9	
14	穂積小学校給食共同調理場	穂積小学校 寒川小学校 中小学校	2月16日(火)	かんぱちのみそがらめ	9.9	
15	羽川小学校		2月16日(火)	かんぱちの甘酢和え	32.8	
16	羽川西小学校給食共同調理場	羽川西小学校 豊田南小学校 豊田北小学校	2月16日(火)	かんぱちの甘酢和え	26.2	
17	萱橋小学校給食共同調理場	萱橋小学校 絹義務教育学校1~4年	2月17日(水)	かんぱちの甘酢和え	13.8	
18	小山中学校給食共同調理場	小山中学校 豊田中学校	2月8日(月)	かんぱちと大根のうま煮	29.7	201.8
19	小山中央学校給食共同調理場	小山第二中学校 美田中学校	2月17日(水)	かんぱちと大根のうま煮	21.6	
20	小山第三中学校		2月9日(火)	かんぱちと大根のうま煮	35.6	
21	大谷学校給食共同調理場	大谷中学校 小山城南中学校	2月16日(火)	かんぱちと大根のうま煮	55.1	
22	間々田学校給食共同調理場	間々田中学校 乙女中学校	2月18日(木)	かんぱちと大根のうま煮	32.2	
23	小山北学校給食共同調理場	桑中学校 絹義務教育学校5~9年	2月16日(火)	かんぱちと大根のうま煮	27.6	
合計					720.2	

【別紙】 学校給食への「栃木県産和牛」無償提供（学校順）

No.	学校名	共同調理場の場合 の供給校	使用日	使用料理名	使用量 (kg)	小・中別計 (kg)
1	小山第一小学校給食共同調理場	小山第一小学校 小山第二小学校 小山第三小学校	2月25日(木)	肉豆腐	45.0	433.5
2	小山城南小学校		2月10日(水)	肉じゃが	14.0	
3	旭小学校		2月18日(木)	肉豆腐	18.0	
4	小山城北小学校給食共同調理場	小山城北小学校 若木小学校	2月1日(月)	肉豆腐	41.0	
5	東城南小学校		2月1日(月)	牛肉のバーベキューソース	45.0	
6	小山城東小学校		2月25日(木)	ハヤシライス	39.0	
7	大谷東小学校		2月10日(水)	肉豆腐	29.0	
8	大谷北小学校		2月5日(金)	プルコギ	52.0	
9	間々田小学校		2月25日(木)	肉豆腐	17.0	
10	乙女小学校		2月5日(金)	肉うどん	20.0	
11	間々田東小学校給食共同調理場	間々田東小学校 大谷南小学校	2月26日(金)	肉豆腐	35.0	
12	下生井小学校		2月10日(水)	肉豆腐	2.5	
13	網戸小学校		2月10日(水)	肉豆腐	3.0	
14	穂積小学校給食共同調理場	穂積小学校 寒川小学校 中小学校	2月4日(木)	肉豆腐	12.0	
15	羽川小学校		2月25日(木)	肉豆腐	26.0	
16	羽川西小学校給食共同調理場	羽川西小学校 豊田南小学校 豊田北小学校	2月9日(火)	肉じゃが	18.0	
17	萱橋小学校給食共同調理場	萱橋小学校 絹義務教育学校1~4 年	2月5日(金)	ビーフストロガノフ	17.0	
18	小山中学校給食共同調理場	小山中学校 豊田中学校	2月9日(火)	ビーフカレー	23.0	259.0
19	小山中央学校給食共同調理場	小山第二中学校 美田中学校	2月26日(金)	ビビンバ丼	26.0	
20	小山第三中学校		2月1日(月)	ビビンバ	45.0	
21	大谷学校給食共同調理場	大谷中学校 小山城南中学校	2月5日(金)	プルコギ	90.0	
22	間々田学校給食共同調理場	間々田中学校 乙女中学校	2月19日(金)	プルコギ	54.0	
23	小山北学校給食共同調理場	桑中学校 絹義務教育学校5~9 年	2月9日(火)	ビーフカレー	21.0	
合計					692.5	692.5

記者会見資料

秘書広報課

1. 件名

小山市 シティプロモーション キャッチコピー・ロゴデザイン市民投票について
～ 市民ひとりひとりが決める、新しい「小山市」のキャッチコピー ～

2. 内容

小山市では、シティプロモーションの将来像として、『市民が愛着と誇りを持ち、生き生きと暮らす「市民ひとりひとりが主役のまち」おやま』の実現に向けた第一歩として、市民が親しみ、愛着をもてるようなキャッチコピー＝ブランドメッセージとそれを具現化したロゴデザインを、市民から広く募り、選定を進めてきました。

この度、応募された237点から審査会による審査を経て選ばれた3つのキャッチコピーをもとに制作したロゴデザインについて、市民の皆さまによる投票を実施して、小山市の新しいキャッチコピー・ロゴデザインを決定いたします。

3. キャッチコピー・ロゴデザインの最終案（3つ） ※ロゴデザインは別紙参照

- ① 小山。都会と自然の、結び目に。
- ② 心にゆとり。住むなら小山。
- ③ 小さな自慢が、山ほどあります。

3. 投票期間・方法

1月25日（月）～2月5日 → 12日（金）



・原則、インターネット（かんたん申請システム）にて申込み

（URL：<http://www.task-asp.net/cu/eg/lar092088.task?app=202100006>）

※緊急事態宣言中であることを踏まえて、投票期間を1週間延長しました

※市役所、各出張所において投票用紙での受付も可能ですが、新型コロナウイルス感染症対策のため、なるべくインターネットでの申込みをお願いします

4. 投票結果について

2月25日（木） 審査会において、投票結果報告。

3月16日（火） 定例記者会見において、公表。原案者への表彰（予定）

4月 1日（木）から 活用・運用開始

5. 問合せ 小山市 秘書広報課 小山の魅力発信室（Tel：0285-22-9353）

（参考）小山市のキャッチコピー・ロゴデザインに求めるもの

- ・幅広い年齢層にとって分かりやすく、覚えやすく、使いやすいものであること
- ・市民が親しみ、愛着をもてるものであること
- ・小山市の未来、将来まちに関わるひとたちに向けたものであること

記者会見資料

総合政策部 総合政策課

1. 件名

「第2期小山地区定住自立圏共生ビジョン（素案）」に係るパブリックコメントの実施について

～誰もが住みたい・住み続けたい圏域を形成します～

2. 内容

小山市では、現行の「小山地区定住自立圏共生ビジョン」が令和2年度で計画期間を終了することから、新たに令和3年度から令和7年度の5年間を計画期間とした「第2期小山地区定住自立圏共生ビジョン」の策定作業を進めております。

誰もが住みたい・住み続けたいと思える魅力ある定住自立圏形成のため、共生ビジョン策定にあたり、圏域内の市町民の皆様に公表し、ご意見等を頂戴して共生ビジョン策定の参考にさせていただくため、パブリックコメントを実施するものです。

3. 実施方法

1) 実施期間

令和3（2021）年2月2日（火）～ 2月15日（月）

2) 閲覧場所

ア) 小山市・下野市・野木町・結城市 各ホームページ

イ) 小山市：総合政策課、市内各出張所

下野市：総合政策課

野木町：政策課

結城市：企画政策課

3) 意見の提出方法

住所、氏名、電話番号などを記入し、次のいずれかの方法による。

ア) 郵送 〒323-8686 小山市中央町1丁目1番1号 総合政策課宛て

イ) Fax 0285-22-8972

ウ) 電子メール d-kikaku@city.oyama.tochigi.jp

エ) 直接提出 小山市役所本庁舎3階 総合政策課

記者会見資料

都市整備部 都市計画課

1 件 名

小山市コミュニティバス「おーバス」利用促進プロジェクトがグッドデザイン賞に続き「令和2年度JCOMMプロジェクト賞」を受賞しました

2 要 旨

小山市では、2018年度から地方創生推進交付金を活用し、おーバスの利用促進に取り組んでおり、この度、この取り組みが、「令和2年度JCOMMプロジェクト賞」を受賞しました。

<事業の概要>

- ・ 渡良瀬ライン、ハーヴェストウォーク線の新設等
- ・ バスロケーションシステムの導入
- ・ 7割引全線共通定期券「おーバス noroca」の導入
- ・ 生活情報誌「Bloom!」1～3号を市内全戸配布
- ・ facebook・Twitterの開設・情報発信

<事業の主な効果>

- ・ おーバスの利用者数増加（66万人^(2017年度)→73万人^(2019年度)）
- ・ 定期券をお持ちの方の人数増加（2.1倍）
- ・ 学生定期をお持ちの方の人数増加（3.8倍）
- ・ おーバスに関するお叱りのメール、電話の減少（10分の1）

<JCOMM実行委員会から>

デザイン性に優れたMMツールを含め、完成度の高いMMプロジェクトとして高く評価されました。またバス運賃の値下げと収入増加の両立が期待できる取組であることから、JCOMMプロジェクト賞として選定されました。

3 その他

※JCOMM：日本モビリティ・マネジメント会議（Japanese Conference On Mobility Management）の略称。会議運営主体の一般社団法人JCOMMは、（社）土木学会の支援を受けて、日本国内に効果的に広範にモビリティ・マネジメントが実施されるよう活動をしています。

※モビリティ・マネジメント：渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自動車などを「かしこく」使う方向へ自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのことを意味します。

※JCOMMプロジェクト賞：毎年数多く行われているモビリティマネジメントプロジェクトの中から、特に優れた1～3プロジェクトに授与されるもの。今年度は、数多くの応募があった中から選ばれたと聞いております。

4 問合せ

都市計画課 都市交通推進室 新交通・コミュニティバス推進係（電話 0285-22-9293）

記者会見資料

消防本部 消防署

1. 件名

令和2年 火災・救急・災害・救助件数について
 ～その火事を防ぐあなたに 金メダル～

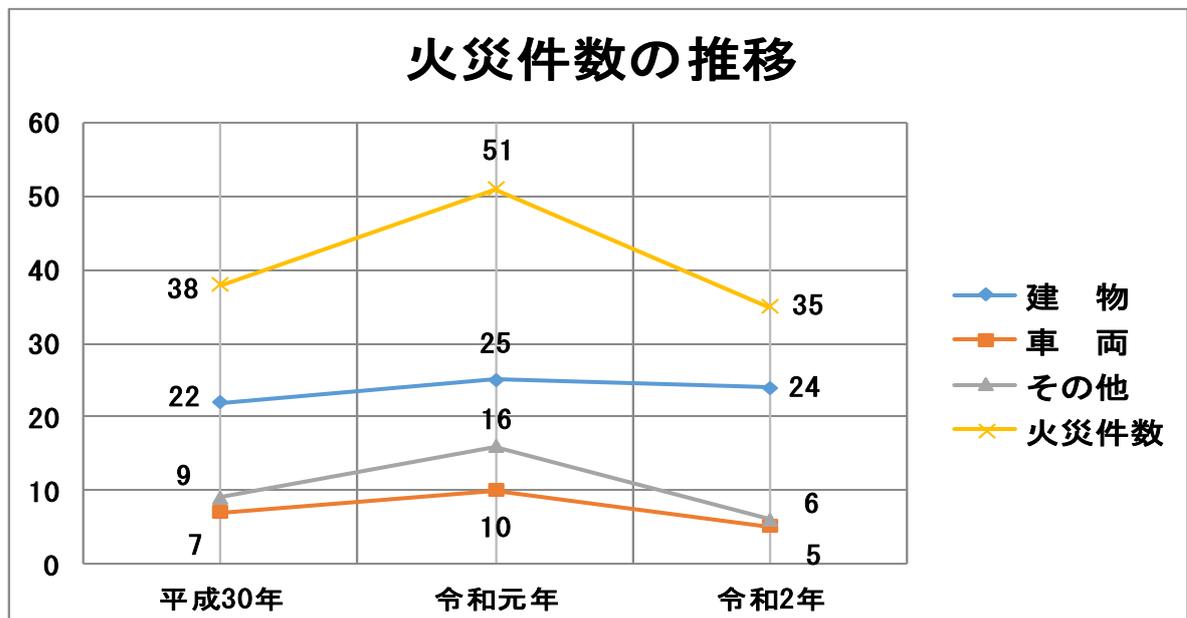
2. 要旨

小山市消防本部管内（小山市・野木町）における令和2年1月1日～12月31日までの火災・救急・災害・救助件数の概要です。

3. 内容

(1) 火災状況

月別 種別	月別												令和 2年 件数	前 年 比	令和 元年 件数	平成 30年 件数	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
建 物	4	3	3	4	3			3		3		1	24	-1	25	22	
車 両	2	1						1				1	5	-5	10	7	
その他	1	1	1		1							1	1	6	-10	16	9
計	7	5	4	4	4			4		3	2	2	35	-16	51	38	



火災件数は35件で、前年比16件減であります。内訳は、建物火災が最も多く24件（前年比1件減）で全体の68.6%を占めており、ほかにその他の火災が6件、車両火災が5件で、コロナ禍における警戒広報や住民の外出自粛などにより火災件数が減少したと考えられます。

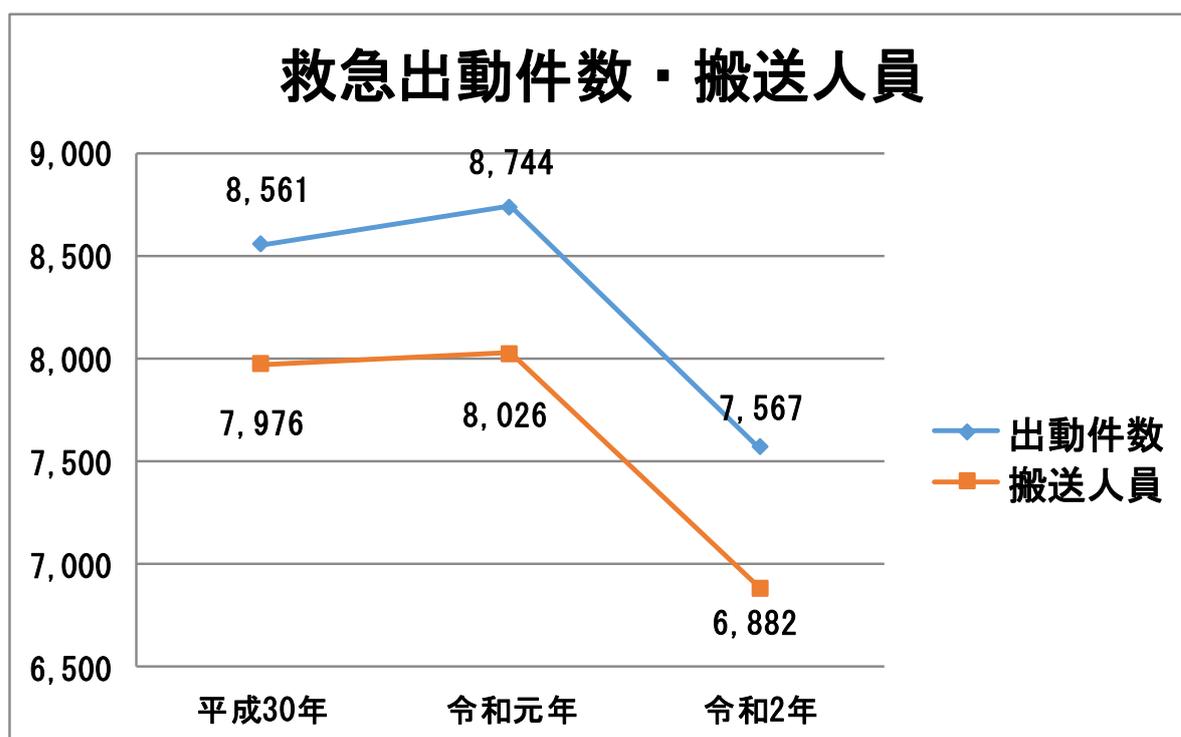
主な出火原因は、電気機器が4件、電灯・電話等の配線が3件、次いでたばこ、放火及び放火の疑いがそれぞれ2件となっています。

火災による死者は無く（前年比3人減）、負傷者は7人（前年同）です。

損害は、9,799万6千円（前年比5,480万円減）であります。

(2) 救急出動状況

種別 年別	事 故 種 別											出 動 件 数	搬 送 人 員
	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他		
令和2年	31		4	611	91	26	962	49	87	4,988	718	7,567	6,882
令和元年	37	1	3	774	97	55	1,061	44	83	5,682	907	8,744	8,026
平成30年	26		8	874	128	64	975	46	88	5,508	844	8,561	7,976



救急の出動件数は7,567件で、前年比1,177件の減少となり、搬送した人員は6,882人で、前年より1,144人減少しています。

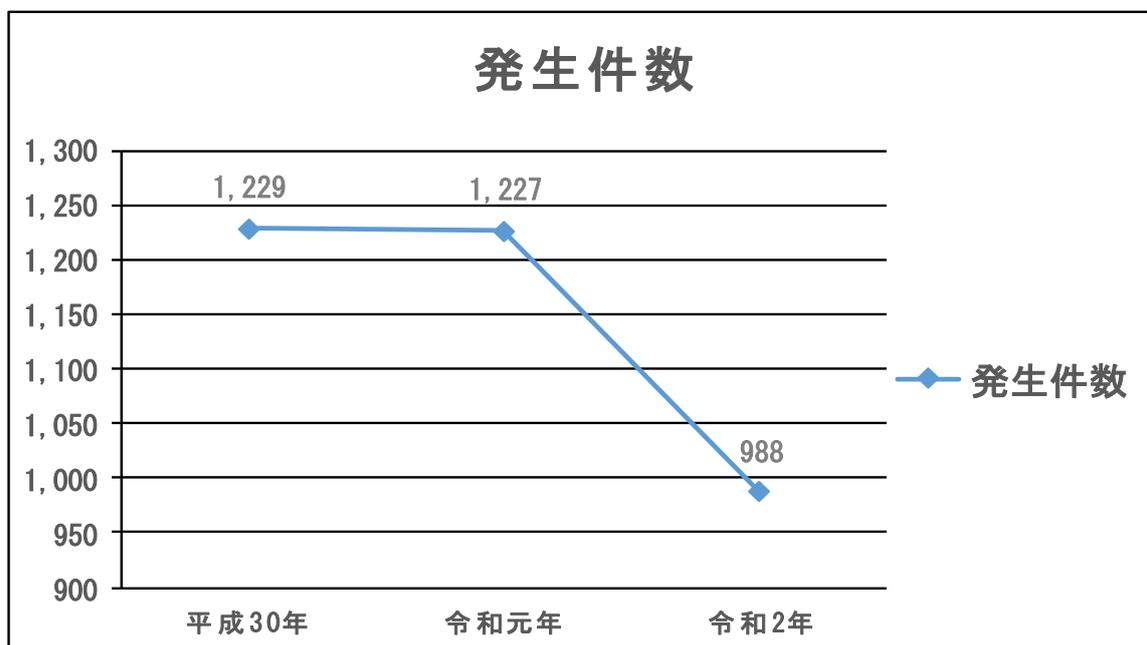
事故種別ごとの件数では、急病（4,988件）、一般負傷（962件）、その他（718件）の順となっており、急病は全体の65.9%を占めています。

出動件数及び搬送人員は、平成26年より毎年増加傾向にありましたが、7年ぶりに減少したものです。要因として、コロナ禍に伴う外出自粛や病院の受診控え、住民が感染予防策を徹底したことによる急病者の減少などが考えられます。

傷病程度の内訳は、死亡127人、重症652人、中等症2,850人、軽症3,253人となり、軽症者が全体の47.3%を占めています。

(3) 災害事故出動状況

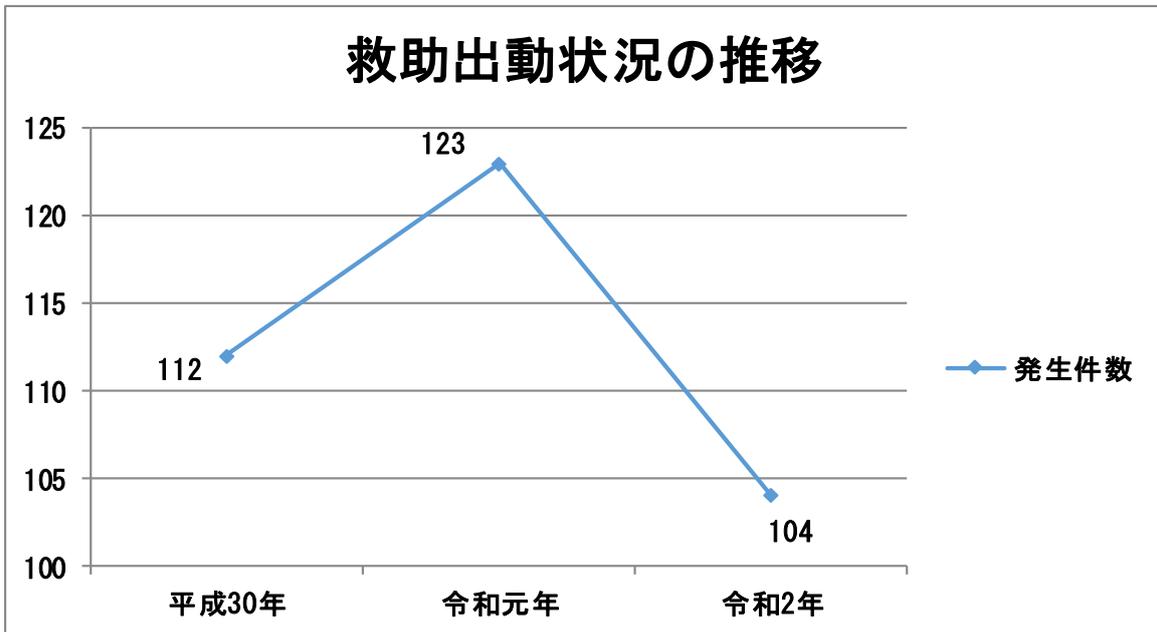
種別 年別	事故種別								合計件数
	自然災害	事故	警戒	その他					
				火災と判定しない 燃焼事故	危険排除	誤認・誤報・ いたずら	救急支援	その他	
令和2年		1	17	28	54	51	762	75	988
令和元年	2		14	34	60	44	1,058	15	1,227
平成30年	6	3	15	17	49	42	1,086	11	1,229



災害事故出動件数は988件で、前年比239件減少となり、救急支援が762件（前年比296件減）で全体の77.1%を占めております。

(4) 救助出動状況

種別 年別	事故種別										合計件数
	火災		交通事故	水難事故	風水害等自然災害事故	機械による事故	建物等による事故	ガス及び酸欠事故	破裂事故	その他の事故	
	建物	建物以外									
令和2年	22	6	27	4		4	23			18	104
令和元年	23	14	49	3	1	1	22			10	123
平成30年	18	8	38	8		1	30			9	112



救助出動件数は104件で、前年比19件減となります。

事故種別では、交通事故が最も多く27件（前年比22件減）で、全体の25.9%を占めており、次に建物等による事故が23件（前年比1件増）であります。

4. 問合せ

小山市消防署 消防係 TEL0285-39-6664